



2015年4月1日

世界初、ピクセル・ボディの MINI が誕生。

- » 8ビット・モデルによりレトロな情緒を表現。
- » トランスフォーム機能により思いのままの自由なボディに。
- » MINI 史上最大となる 256 色のカラー・バリエーション。

ビー・エム・ダブリュー株式会社(代表取締役社長: ペーター・クロンシュナーブル)は、世界初となるピクセル・ボディの MINI を、本日限定で、全国の MINI 正規ディーラーで販売を行なう。

昨年春に7年ぶりのフルモデル・チェンジで世界を沸かせた MINI は、MINI 王道となる3ドア・モデルに加え、昨年秋には5ドア・モデルも登場し、プレミアム・コンパクト・セグメントにおいてゴーカートのように暴れまくっている。MINI 3ドアは、MINI の原点であるゴーカート・フィーリングを徹底的に追及した正統派 MINI であるが、1960年代に MINI の名を世界に知らしめたクラシック Mini の情緒を、デザインにおいて継承しつつ現代風にアレンジしている。

スマートフォンやタブレット PC の誕生等、技術革新が進み、MINI にも最新テクノロジーが搭載される中、本日限定で販売を行なうのは、敢えてレトロ感を助長する8ビット・モデルの MINI である。エクステリア、インテリア・デザインの全てを8ビットで表現することによりレトロな情緒を感じさせている。また、8ビット・モデルにのみ、その特徴を最大限に活用した「トランスフォーム機能」を搭載している。ボタン一つで分解可能であり、形を自由に変形させることで、狭い道においてはボディを道幅にあわせての走行が可能であり、また、狭い駐車スペースにも、ボディをスペースにあわせて駐車する事が可能になっている。さらに、8ビット・モデルの MINI は、その名に由来し、なんと、全 256 色のボディ・カラーを設定している。256 色ものカラーを用意しているのは、8ビット・モデルの MINI が最初で最後である。

一見、非現実的とも思えるこの8ビット・モデルの MINI は、毎年4月1日の発表にあわせ新型モデルを開発しているドイツ BMW 社の A. プリルフル設計主任により開発されている。「昨年発表のクラシック Mini ボタンにより、最新型も旧型も楽しめる MINI の開発も苦労したが、今回の8ビット・モデルの開発は、それ以上に苦労した。8ビットでのデザイン表現も苦労したが、何より、トランスフォーム機能の搭載が厄介だった。でも、これにより、世界が抱えている大都市への人口集中による課題が解決できると思っているよ。」と述べている。「だが、注意点が二つある。一つは、同じ8ビット・キャラクターの代表格であるパックマンに、どこからともなく、特に路地で遭遇する事。同じ8ビット・モデルだから、やきもちをやくのさ。そして、もう一つは、このリリースの日付だよ。」とも、述べている。

以上、MINI からのエイプリル・フールのジョークでした。

なお、MINI とパックマンの対決の続きは、9月19日公開の映画「ピクセル」で。

<http://www.pixel-movie.jp/>